

平成27年度学校自己評価表(西武学園文理小学校)

平成28年4月

目指す学校像	英語のシャワーでグローバルなトップエリートを育てる。 (様々な体験学習を通して、バランスのとれた人格形成を目指す。)
重点目標	「こころ」「知性」「国際性」の3つの特質を身につけた児童の養成を重点とした授業展開、生活指導体系を確立する。

達成度	A	ほぼ達成(80%以上)
	B	概ね達成(60%以上)
	C	変化の兆し(40%以上)
	D	不十分(40%未満)

学校自己評価						学校関係者評価
年度目標			年度評価			意見・要望など
No.	課題項目	具体的な方策	課題項目の達成状況	自己評価	次年度への課題	
1	こころを育てる 人間性あふれる心豊かな子ども育てる	学校生活の中での、「あいさつ」を習慣化させる。 (来客に・教師に・友だちに・その他)(校門で・教室で・廊下ですれ違った時・授業で・その他)	ほぼ達成している。保護者や来客に対して、気持ちの良い挨拶ができる児童が多いと称賛をいただくことも多い。	A	引き続き、明るく元気な挨拶、基本的な生活習慣、主体的行動パターンの確立を図る。縦割り活動・ペア活動・通学班活動を更に推進し、ホスピタリティ精神に裏付けされた、協力、思いやり、優しさなどの心を育成する。個々の児童の良さを見つめ、より良い支援・援助ができるよう、教職員間の学びの場を設定する。児童が夢を持ち、それに向かって努力を継続できるよう適切な指導に努める。	児童の多くは、明るく元気よい挨拶がきている。保護者や来客に対して、「こんにちは」と、気持ちの良い挨拶してくれる児童が多いので、指導がゆきとどいていることが感じられる。学年を超えた諸活動についても、児童の発達に大きく寄与していることが理解できる。ごく一部の児童に、登下校の通学路や駅のホーム、電車内のマナーが守れず、外部の方からお叱りの電話を受けることもあった。本校児童に関心を持って見ていただいていることに感謝をし、根気強く指導を続けていかれることを望みたい。
		優しい心と感謝の気持ちを育む。(各種行事や体験・縦割り活動・ペア活動・通学班活動などを推進し、異学年間の交流を通し、助け合い、協力、思いやり、優しさなどの心を育成する。)	縦割り活動、通学班活動、ペア活動により、上級生に自覚や責任が育ち、下級生から頼りにされている様子が見られる。	A		
		ひとりひとりの努力を認め、継続する気持ちを育てる。 (生活目標達成の表彰、個人の努力の支援・激励・称賛など)	表彰や点鐘を楽しみにし、また、次も頑張ろうという意欲とそれを称賛する雰囲気がある。	A		
2	知性を育てる 学ぶことの喜びを体感させ自ら学び考える習慣を身につけさせる	卒業生の講話などを取り入れ、文理小学校の児童としての誇りと、先輩への憧れ、そして夢を持ち、それに向かって一層の努力をしようという意欲を育てる。教育内容の充実と、情報の開示およびわかり易い広報活動に努め、保護者の信頼と理解を深めると共に、快い協力が得られるようにする。	学園の中に息づく、ホスピタリティ精神や文理科生としての意義と誇りを伝え、保護者からも理解と協力を得られるようになってきた。卒業生の学校訪問や体験講話、中学・高校生との交流活動などに接して、文理小学校の児童としての意識が高まりつつある。	B	卒業生の講話や中学・高校生との交流活動を更に充実させ、児童の夢を育む場の設定、支援の方法を探っていききたい。今後は、その内容についても精査し、保護者の信頼を得るために、一層の創意工夫に努めたい。	文理小学校の児童としての誇りと自信を、多くの家庭が持っている。保護者や地域の方々の協力が大きいことも本校の特色である。引き続き、保護者や地域の信頼を損なうことの無いように、絶え間ない努力をつづけていかねばならないと感じている。中学・高校との交流活動についても一層の拡充を希望
		学ぶことの楽しさを感じ取らせると共に、基礎学力の徹底を図る。文理中学校へとつなげるために、高度な学力と思考力を養う。さらに、プレゼンテーション力を鍛える。	各種体験学習、英語・漢字・論語検定、学年を超えた英語・算数オリンピック等を実施し、学習への動機づけに効果を上げている。	A	文理教育体系における小学校教育の「知性」の項目(豊かな学力の構築、思考力・判断力・実行力の涵養、プレゼンテーション能力の育成、リーダーシップ教育の実践、CA活動の推進、読書活動の奨励、給食・健康・体育活動の向上、クラブ活動の充実)に合わせ、それぞれの活動における課題をより明確にし、さらにその課題を解決して、各活動の達成目標に向けて成果を上げていきたい。	
		授業や家庭での学習指導の内容、および各種教材等を見直し、更なる改善に努める。(具体的にはチームティーチング・得意不得意への対応・教科担任制・英検・漢検・ゼミと補講など)	算数等の先取り学習も軌道に乗り、TT、習熟度学習、教科担任制も効果を上げているが、更なる改善、向上を目指している。	A		
3	国際性を育てる 小・中・高12年一貫の教育指導体制を確立する	各種の研修や学習支援講習会、あるいは教師間の授業見学等を推進し、教師が指導力向上を目指して切磋琢磨する校風を育て、教師のスキルアップに努める。	OJTにより、授業研修の機会を持つべく努力はしているが、時間調整が困難で、各自の要望に見合ったものにはなっていない。	B	第一期生が高校を卒業し、12年一貫教育が完成を見た。中学、高校からの入学者と比べて遜色のない実績を得ることができたのは、リアルタイムで学習状況や成績を追いつき、逐次カリキュラムの修正を加えた結果である。この成果をすみやかに小学校の教育課程に反映させ今後の発展を目指したい。	中学・高校を経験した職員および管理職等の人事交流によって、小中高一貫教育に対応した校内体制が確立されてきたことを、学校関係者及び保護者の多くが実感している。今後さらに中学・高校との連携を密にし、大学入試改革の動きや、学習指導要領の改訂に合わせて、より効果的なカリキュラムの編成を期待している。
		中学・高校との情報交換および協力態勢を密にし、中高の生徒の実態や本校卒業生の様子や傾向を把握し、小学校における今後の指導に生かすなど、12年一貫の教育指導体制の確立を図る。	協力体制等はほぼできているが、中・高生の状況や本校卒業生の様子や傾向を十分に把握しているとは言えない。指導が意図的、計画的かと言えばそこまでは、到達していない。	B		
3	国際性を育てる 真の国際人になるための基本的な能力と価値体系を養成する	次期指導要領改訂を視野に入れ、現行の教育課程の完全実施に努める。教育の将来を見据え、本校の特色を生かした小中高の一貫カリキュラムの構築を計る。	創立以来、不断の改善と改革を続け、特色を積み重ねてきた。常に将来を見据えたカリキュラムを計画的に実施している。	A	1年次からの英語の授業、文理イメージイン授業やイギリス短期留学、アメリカ研修を通じて、国際性を育てる道筋はできている。10人程のALTに常に接する機会があり、英語のシャワーを豊富に浴びせるべく、その機会を増やしている。英語検定への関心や意欲も高い。伝統的日本文化の理解と習得は、茶道研修、百人一首大会、論語講座を実施するなど、小学生としては、他に類を見ないほど日本文化、アジア文化、西洋文化等への造詣も深い。この状態を今後いかに維持し、いかに発展させるかを常に考え、検討していくべく努力したい。	文理中学校への進学条件の一つである「英語検定試験3級合格」への意識は十分にできている。低・中・高学年のいずれにも準2級合格者が相当数おり、2級合格者も数名いて、中学進学までに準1級を取得する者も出現し、英語教育の実績は高く評価されている。また、数多くの「日本文化の伝統行事」が実施されていることにより、日本人としてのアイデンティティもしっかり養われている。さらに、イギリス短期留学やアメリカ研修の経験により、語学力およびコミュニケーション能力に自信を持ち、国際的な視点から物事を見ることができるようになっている。これらの能力により、児童ひとりひとりの将来の夢への拡がりに向けて、大きな可能性を創出している。
		英語の授業や音楽・図工・体育の授業の中での英語(文理イメージイン授業)の充実、日常生活の中での英語のシャワー、海外研修をはじめとする外国人との交流や文化の交換等を通して、国際人としての素地を養う。	英語の授業も、文理イメージイン授業(英語による音楽・図工・体育)も歴史を重ね、大きな成果をあげている。英語のシャワーや国際交流も充実し、すべてに最高潮と言ってもよい。	A		
		海外研修を通して、語学力の伸長や異文化理解を深め、国際交流を進める中でのプレゼンテーション能力・コミュニケーション能力の伸長を図る。	海外研修の効果は、計り知れないほど大きなものがある。充実した内容の研修が毎年できていることは、素晴らしいことである。	A		
3	国際性を育てる 真の国際人になるための基本的な能力と価値体系を養成する	日本人としての自己意識を確立するために、日本の伝統文化を理解し、習得するための体験学習(礼儀作法等を含む日本食のマナー体験、茶道研修、書き初め競争、おもちゃ大会、百人一首大会、短歌つくり、論語検定等々)の充実を更に進める。	それぞれの体験学習が、毎年の行事として児童の中に定着している。みんなが楽しみにしている行事、優勝を目指して意欲を燃やす行事、黙々と練習を重ねて努力する行事等、どれもすっきり根をはり効果を上げている。	A		